

NO! リニア

No. 4 1

2011年 4月11日
JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

東日本大震災でリニア耐震性検証へ 交通政策審議会小委員会

4月8日、交通政策審議会中央新幹線小委員会が非公開で開催されました。新聞報道によると、東日本大震災を受け、リニア中央新幹線の耐震性や東海道新幹線が被災した場合の位置づけなどを検証し、今月中にも最終答申案に盛り込むとしています。家田委員長は、「起こり得ることは必ず起こるという信念で検討しなければならない」と述べました。

小委員会は、リニア中央新幹線を推進する立場で議論を進めてきています。懸念される環境問題、人体への影響の問題、JR東海の財務体質の問題、需要問題などは、十分な議論がされないまま、甘い見通しによって結論が出されようとしているのではないのでしょうか。東海地震を想定したリニアへの影響、特に通常運転が可能かどうかの検討がされるのでしょうか。東日本大震災を教訓とするなら、まずリニアの供給電力を心配しなければなりません。

「原発は環境にやさしい、安全だ」と主張しながら原発建設を進めてきた国、学者、電力会社の欺瞞性は、福島第一原発事故で証明されました。リニアも同様です。建設ありきで、疑問を持つ人の意見を聞かず一方的に推し進め、失敗の結果に終わった場合、「想定

外」で済まされません。リニアを推進してきた人たちの責任は重大です。小委員会は建設前提の議論は直ちにやめるべきです。

福島第一原発事故は「想定外」！
リニアも「想定外」は許されない！

リニア新幹線耐震性検証へ
交通政策審議会小委員会
委員会は8日、東日本大震災を受けリニア新幹線の耐震性や、東海地震などで東海道新幹線が被災した場合の位置づけなどを検証することを決めた。次回合会でリニア新幹線のルールを議論し、今月中にもまとめる最終答申案に盛り込む。
家田仁委員長（東大大学院教授）は会議終了後、今回の震災での東北新幹線など鉄道の

高架橋の被害状況から「これまでの耐震設計や補強の考え方（の正しさ）が検証された」と指摘。設計基準などを大幅に見直す必要は「起こり得ることは必ず起こるという信念で検討しなければいけない」と述べた。
また家田委員長は、委員から、震災を受けリニア新幹線のルールを見直しを求める声はなかったと説明。また「（東海道新幹線の）代替手段としてなるべく早く実現する方がいい」との意見があったという。